

校 園 名：福岡教育大学附属久留米中学校

所在地：〒830-0051 福岡県久留米市南 1 丁目 3 番 1 号 電話番号：(0942)32-4488

記載日：平成28年 5月19日 記載者：永溝弘幸 記載者役職：副校長

貴校の校風，おおまかな特色について：

校 訓：「自主と責任」

学校教育目標 「自主と責任を重んじ，人間力豊かな生徒の育成」

重点目標 ○確かな学力，豊かな心，逞しい体の育成
○附属久留米中学校の存在意義の確立，及び高揚

めざす生徒像 ○「高牟礼の誇り」を仰ぎ，磨き，護ることができる生徒
○生命や人権を尊重し，思いやりを持ち，協力してものごとに取り組む人間力
ある生徒

めざす教師像 ○附中教師として誇りを持ち，自己研鑽に努め，指導・援助に燃える教師
○生徒を共感的に受け入れて励まし，生徒，保護者，同僚から信頼される教師

- 努力点
- I 二学期制のもと「人間力の向上」を目指す教育課程の工夫や教育実習の充実に努め，「特色ある学校」をめざす。
 - II 大学との共同研究の推進及び，地域教育の核となる先導的な教育研究を推進する。
 - III 生徒が「自主と責任」「高牟礼の誇り」を自覚する生徒指導の充実に努める。
 - IV 保護者や地域から信頼され，生徒が安全，安心して過ごせる学校づくりを推進する。
 - V 国立大学法人のもと，組織マネジメントを意識した学校運営の工夫改善を行う。
 - VI 「国の拠点校」「地域のモデル校」としての存在意義の明確化に努める。

本校では，授業実践研究と三大大行事を中心に附中文化の創造を中核にすえた教育活動を推進し，学力向上と人格形成の両立をめざして，以下のような特色あるカリキュラムを編成しています。

- 1 前・後期の二学期制を取り入れ，学習活動の充実に努めています。
- 2 附中三大大行事（体育祭・藤見会・文化祭）をはじめとした学校行事を生徒の手でつくり上げることができるように支援しています。
- 3 各教科の授業では，問題解決的な学習過程で単元を構成し，知識・理解面だけでなく，資料活用能力や思考力・判断力・表現力の育成に努めています。
- 4 英語検定と漢字検定の取得に向けた学習の時間を確保し，全校生徒の資格取得の推進を図っています。

貴校の卒業生の活躍状況について：

- ① 追跡調査はしていません。
- ② 4年に1度開催される本校同窓会（「高牟礼会」）で把握される程度です。

貴校勤務経験者の先生方が公立学校・教育委員会などへ戻られた後の活躍状況について：

- ① 追跡調査をしているわけではありませんが、本校に勤務した者で「ちとせ会」(OB会)を組織し、毎年名簿を作成しています。
- ② ほぼ100%把握できています。また、その情報は本校と「ちとせ会」会員が持っています。
- ③ 近年の具体的状況は以下の通りです。(人数)

【平成28年度昇任等】

- ・市町教育委員会教育長(1)
- ・県教育庁 義務教育課主任指導主事(1)
教育事務所人事管理主事(1)
教育事務所主任指導主事(1)
義務教育課指導主事(1)
教育事務所指導主事(2)
- ・県体育研究所 指導主事(1)
- ・市町教育委員会 教育次長(1)
指導主事(3)
- ・校長(10)
- ・副校長(1)
- ・教頭(11)

【平成27年度昇任等】

- ・市町教育委員会教育長(1)
- ・県教育庁 体育スポーツ健康課課長(1)
主幹指導主事(1)
教育事務所副所長(2)
教育事務所主任指導主事(1)
義務教育課指導主事(2)
教育事務所指導主事(1)
- ・県教育センター 主任指導主事(1)
指導主事(1)
- ・市町教育委員会 教育次長(1)
指導主任(2) 指導主事(3)
- ・校長(4)
- ・教頭(5)

※主幹教諭・指導教諭については省略します。

魅力のある、特色のある、または、今後、公立学校へも展開できそうな先導的な取り組みなどについて：

【附中三大行事について】

本校では、様々な行事や日頃の学校生活を通して、校訓である「自主と責任」の精神の涵養と共にリーダー・フォロアーの関係づくりなど、生徒たちの人間的な成長をめざしています。

5月の体育祭では、ブロック対抗の様々な競技や、趣向を凝らしたブロック全員による応援合戦を行います。6月の藤見会では、各学級で練習した合唱の披露や、国語の時間につくった短歌の朗詠を行います。10月の文化祭では、各学級で創り上げた学級劇の上演を中心に、学習成果の発表等を行っています。

これらの3つを「附中三大行事」と呼び、学年縦割りのブロックで上級生から下級生への援助やアドバイスを活発に行い、取り組みの過程を大切にしています。また、主体的に取り組む意欲、多様性を尊重する態度、他と協働するリーダーシップやチームワーク、コミュニケーション能力など、新しい時代に求められる資質・能力の育成にもつながると考えています。



【体育祭】



【藤見会(合唱と短歌朗詠)】



【文化祭(学級劇)】

その他にも、1年時では久住での「自然体験学習」(7月)、2年時では働く意義を見出し、将来の夢を検討する「職場体験学習」(7月)、日本の伝統文化や人・もの・ことと触れ合い、自分の住む町をよりよくすることを考える「歴史体験学習」(12月)、3年時では進路実現に向けて取り組む「学力強化合宿」(7月)などの活動を行っています。

【本校の研究について】

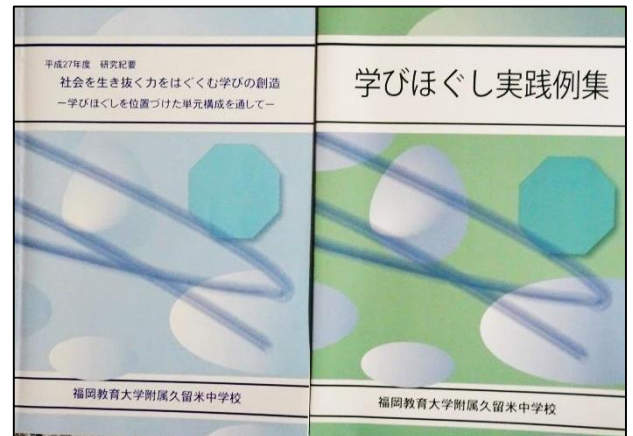
平成 25~27 年度の研究主題：「社会を生き抜く力をはぐくむ学びの創造」

— 学びほぐしを位置づけた単元構成を通して —

研究のねらいは、「本当にこれでいいのか」と自分の知識・技能を問い直し、よりよい生活を送るために他者と協働して、新しい考えや価値を創り出していこうとする子どもの育成でした。そのために、獲得した知識・技能、見方や考え方を発展的課題に適切に活かすことができるように、「学びほぐし」を取り入れ、その具体的な活動を推進してきました。昨年、11月16日には、本校研究3年次として、全教科「学びほぐし」を位置づけた授業の提案(研究発表会)を行いました。400名を超える先生方に参観していただき、以下のような成果を得ることができました。

- ・「学びほぐし」を位置づけることで、習得した知識の理解を深め、技能を高め、見方や考え方を広げ、発展的課題に活かすことができた。
- ・揺らぎを起こすための新たな情報の提示は、一人では解決できない問題を追求したいという意欲につながり、協働的な学習の原動力となった。

今年度からは、予測困難な社会の中で、持続可能性の実現を目指して、自己と社会のつながりを意識し、正解がひとつではない問題に対して他者と協働しながら、納得解や最適解を見出し、更なる問題を発見し、解決しようとする子どもの育成をめざして研究実践に取り組んでいます。



研究主題：「21世紀社会を切り拓く力をはぐくむ学びの創造」

— 真正の学びのカリキュラム・デザインを通して —

今年度は、11月12日(土)に公開授業研を予定し、特に、教科書の題材を使ったアクティブラーニング、副読本や「私たちの道徳」を使った新しい道徳、子ども主体の話し合い活動(学級活動)の授業提案を行う予定にしています。

【大学との共同研究について】

中等教育研究部会を組織し、大学と三附属(福岡中・小倉中・久留米中)の「三附属共同研究」に取り組んでいます。教科ごとに研究テーマを設定し、3年に1度、その研究成果を発表しています。直近では、平成26年に発表会を行い(本校では、350名の参観者を得)、発表会は17回を数えています。また、「大学教員による附属学校・園との授業実践研究」に大学と各附属中学校で取り組んでいます。この研究の意義は、大学教員の各専門分野の研究と教育現場の授業との融合を追求するところにあります。この取り組みは、平成11年度から継続しています。

地域において、現在、貴校はどのような存在であると考えますか：

研究発表会や県教育委員会及び地域からの要請を受けた研修会等への協力を通して、地域教育関係機関との連携が進んでいます。特に、教科等研究会や公立中学校校内研への参加要請など増加しており、地域の教育研究へ貢献が進んでいると捉えています。

【平成27年度】

- ・研究発表会を11月16日（月）に実施、400名を超える参観者。
- ・福岡県義務教育課 学力向上研（国語・数学）
- ・北、南両事務所 臨時的任用教員研（全教科）
- ・福岡県教育センター キャリアアップ講座（理科・技術）
- ・市町教育委員会、教育研究所からの要請指導（13回）
- ・公立中学校からの要請指導（24回）、教科等研究会からの参加要請（16回）

【平成26年度】

- ・三附属共同研究発表会を11月21日（火）に実施。約350名の参観者。
- ・福岡県義務教育課 学力向上研（国語・数学）
- ・県教育センター キャリアアップ講座（理科）
- ・北筑後教育事務所 臨時的任用教員研（6教科）
- ・市町教育委員会、教育研究所からの要請指導（10回）
- ・公立中学校からの要請指導（28回）、教科等研究会からの参加要請（19回）
- ・通常の授業見学（4回）

昨年度の研究発表会の参観者のアンケートから、「普段の附属中学校の授業を公開してほしい（参観したい）」という声が数多くありました。教科の授業づくり講座の開催をはじめ、各地区の研究発表会を授業参観も兼ねて本校で開いていただく等、地域の先生方に気軽に本校に足を運んでいただく機会をこれからも増やしていく予定です。

附属学校の存在意義、貴校の存在意義について：

長年、1年間の県派遣長期研修員（今年度4名）を受け入れ、研修教諭の研究内容の充実に取り組んでいます。本研修制度の特徴は、研究内容だけでなく、道徳や学級活動を含めた学級経営や校務分掌等、直接生徒と関わりながら実践研修を進めているところにあります。県長期派遣研修員は、各市町教育委員会から地域のリーダーとしての期待を担って派遣されています。

【本年度研修員の研究テーマ】

- 数学を活用できる子どもを育てる数科学習指導法の研究
－予想から始まる問題解決学習を位置付けた学習過程を通して－
- 伝え合う力を高める国語科学習指導法の研究
－「対話」活動を通して－
- 自然の事物・現象を科学的に説明することができる子どもを育てる理科学習指導の研究
－学びの第一原理シートを用いた相互振り返り活動を通して－
- 対話力を高める英語科学習指導法の研究
－セルフディベートと相互フィードバック活動を位置付けた学習過程を通して－

県派遣長期研修の制度や本校勤務経験者の活躍状況及び本校の地域貢献の状況等、本校は県の人材育成機関の一翼を担い、地域の教育力向上に大きく貢献していると考えています。